

スケジュール

講義	休憩	事例検討
10:30~13:00	13:00~14:00	14:00~16:30

申込要領

会場	オンライン (Zoom)
対象	臨床心理士、公認心理師、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。 または、それに関わる学生、大学院生。事例の守秘を守れる方。
各回定員	講義：50名 講義+事例検討：35名
申込方法	申込フォームからお申し込みください。 (QRコード、もしくはホームページ内のリンクより)
申込締切	各開催日2週間前まで。定員に達した場合はその時点で締切。
受講料	講義：3,000円 講義+事例検討：6,000円 申込受付後に振込先と振込期日をご案内いたします。
当日受付	申込受付時にお送りしたメール、払込明細書は、セミナー当日まで保管をお願いいたします。 一度納入いただきました受講料は原則として返金致しかねますので、あらかじめご了承ください。
	開始時刻の30分前より入室受付を開始いたします。開始時刻の10分前までにはご入室ください。

申込フォーム
QRコード



2023年度 KIPP対人関係精神分析セミナー

一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所

所長
横井 公一

研修委員会セミナー係
今江 秀和・岡村 香織・森 真治・山岡 亜里紗・小山 恵・山下 美穂・織田 万美子

【お問い合わせ】

一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所

〒612-8083 京都市伏見区京町4丁目156番地1 桃山ビル3階

TEL:075-623-0823 E-mail:info@kipp-u.co.jp

URL:https://www.inst.kipp-u.co.jp/

めまぐるしい社会情勢の変動の中、社会文化的なマクロな視点を取り入れながら、目の前の個人の心というマイクロな視点でその困難に向き合い、どのように相互交流を行っていくことができるのでしょうか。明日からの臨床につながる、社会と個人の心を往還する多面的な精神分析的視点を提供するセミナーを企画いたしました。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

2023年度テーマ

「精神分析でつなぐ現代社会と心」

第1回「脳科学から見た心理療法」

日程:2023年4月16日(日)

講師:岡野 憲一郎 OKANO, Kenichiro (本郷の森診療所/京都大学)

近年精神分析のみならず精神療法一般において、トラウマや解離、脳科学といったテーマを、特に欧米の文献で目にする事が多い。この講義では現代の脳科学的な心の理解をなるべくわかりやすい言葉で説明し、それが私たちの日常臨床にどのような影響を与えるかについて、トラウマ、解離性障害、愛着、犯罪心理等のトピックをまじえつつお示ししたい。

<参考文献>

岡野憲一郎 揺らぎと心のデフォルトモード 2020年 岩崎学術出版社

第4回「ジェンダーについて考える」

日程:2023年10月15日(日)

講師:山本 雅美 YAMAMOTO, Masami (武蔵境心理相談室)

今日の臨床において、ジェンダーの問題は避けて通れないものの一つである。これは心理的な問題にとどまらず、社会的、政治的、またイデオロギーの問題も絡み、複雑になりやすい。こうした社会状況の中で、ジェンダーについて何を知り、どのようにかかわることが臨床家としてクライアントに援助的であり得るのだろうか。ジェンダーに関する基本的概念を整理し、臨床家としてのあり方を考えたい。対人関係学派はジェンダーやセクシュアリティという性に関する現象も、その生物学的側面を踏まえながらも社会文化的側面と、対人関係の影響を抜きに理解することはできないと考えてきた。これが今日のジェンダーの問題を考える枠組みとして有用であることを示したい。

<参考文献>

北山ら(2008) 特集 性と性同一性 心理臨床の観点から 臨床心理学、第8巻 第3号(通巻第45号)

Drescher, J. (2007) From Bisexuality to Intersexuality: Rethinking Gender Categories. Contemporary Psychoanalysis, 43, pp.204-228.

第2回「相互交流:関係精神分析における治療作用」

日程:2023年6月4日(日)

講師:横井 公一 YOKOI, Koichi (微風会 浜寺病院)

伝統的な精神分析理論においては「相互交流(interaction)」について語られることはありませんでした。なぜならば、治療者は患者のこころを映し出すblank・スクリーンであり、治療者の解釈以外の応答は治療者の側のアクティング・イン(acting in)と見なされていたからです。そこには理論上、相互交流の生じる余地はありませんでした。しかし、人と人との出会いの場である治療状況においては、さまざまな形での相互交流が生じています。そして関係精神分析は、そこに治療作用(therapeutic action)の契機を見出します。本講義では、翻訳出版予定のStephen A. Mitchell著“Influence and Autonomy in Psychoanalysis”をもとにして、精神分析における相互交流について考えてみます。

<参考文献>

Mitchell, S. A. (1997), Influence and Autonomy in Psychoanalysis, Hillsdale, NJ: The Analytic Press (2023年に金剛出版より出版予定)

第5回「SNSカウンセリングと対人関係精神分析」

日程:2023年12月3日(日)

講師:宮田 智基 MIYATA, Tomoki (帝塚山学院大学大学院)

SNSカウンセリングとは、LINEなどのSNSを用いたカウンセリングの総称です。SNSカウンセリングは、いじめ相談、自殺対策相談、ひきこもり相談、虐待相談、コロナ禍の心理支援など、様々な領域で急速に広がっています。SNSカウンセリングでは、「感情の反射」よりも「質問」が効果的であり、アセスメントや介入においてサリヴァンの「詳細な質問(detailed inquiry)」が有効でした。本セミナーでは、SNSカウンセリングの効果的な進め方と応答技法についてお話しするとともに、事例素材をもとに対人関係精神分析的観点の有用性について検討したいと思います。

<参考文献>

杉原保史・宮田智基 編著「SNSカウンセリング・ハンドブック」誠信書房 2019

杉原保史監修、宮田智基・畑中千紘・樋口隆弘編著「SNSカウンセリング・ケースブック」誠信書房 2020

第3回「外傷的育ちの生きづらさに光を届けるートラウマ・インフォームドなメンタライジング・アプローチー」

日程:2023年9月10日(日)

講師:崔 炯仁 CHOI, Hyungin (いわくら病院)

「外傷的育ち」とは、「虐待や過度の支配など過酷な養育体験とその影響」を指す。近年逆境的小児期体験(ACE)に関する研究が進み、その心身の「影響」は非常に広汎なものであることがわかってきた。社会には「宗教二世」と呼ばれる人々など、これまで見えなくされていた外傷的育ちの形が時代とともに顕われる。子どもは、養育者の省察とミラーリングなど安定した養育関係の中で醸成された認知的信頼(epistemic trust)を基盤にメンタライジングを発達させるが、外傷的育ちにおいてはその発達が様々に阻害される。さらに臨床では子が親にミラーリングを「与える」役割を担わされた影響も大きい。実践においては、心理支援場面に現れる外傷の影響を捉え、理解しながら、幼少期に停止したメンタライジングを再度育んでいける環境を提供することが必要となる。

<参考文献>

西村馨編著(2022)『実践・子どもと親へのメンタライジング臨床ー取り組みの第一歩ー』(岩崎学術出版社)

崔炯仁著(2016)『メンタライゼーションでガイドする外傷的育ちの克服 <心を見わたす心>と<自他境界の感覚>をはぐくむアプローチ』(星和書店)

第6回「組織のコミュニケーション風土を変えるには;対人関係論を生かした組織心理コンサルテーション」

日程:2024年2月4日(日)

講師:川畑 直人 KAWABATA, Naoto (京都文教大学/KIPP)

ホワイト研究所のOrganizational Programの講師たちから学んだ、組織心理コンサルテーションの取り組みについて、基本的な考え方と日本における応用について、実践例を交えながら紹介します。特に、今回はコミュニケーション風土を変えることを目指した企業への介入を題材にしますが、できれば日本社会全体が抱える課題にも言及できればと思っています。

<参考文献>

川畑直人(2014)組織心理コンサルテーション事始め 京都文教大学産業メンタルヘルス研究所レポート4.pp.3-8.

松本寿弥(2019)産業臨床と組織心理コンサルテーション 川畑直人(監)対人関係精神分析の心理臨床(pp.194-216)誠信書房